

厚生労働省  
チーム医療方策検討WG  
チーム医療にあたっての  
SWの貢献について

初台リハビリテーション病院  
ソーシャルワーカー  
取出 涼子

# 1. チーム医療を推進するための基本的な考え方

○カンファレンスの充実、ファシリテーターによる他職種を尊重した議論を行うことが重要……具体例

□ 救命救急センターカンファレンス例

□ 急性期脳卒中チームカンファレンス例

□ 回復期リハ病棟・療養病床チームカンファレンス例

# 1. チーム医療を推進するための基本的な考え方

## ○医療スタッフ間の情報共有のための電子カルテ等情報の一元管理 具体例

□ 救命救急センター電子カルテ例

□ 脳卒中チーム電子カルテ例

□ 回復期リハ病棟・療養病床チーム電子カルテ例

# 1. チーム医療を推進するための基本的な考え方

○患者に最高の医療を提供するために、患者の生活面・心理面のサポートをチームで行う

□ 救命救急センター例

□ 脳卒中チーム例

□ 回復期リハ病棟・療養病床チーム例

# 1. チーム医療を推進するための基本的な考え方

## ○患者もチームに参加する

□ 救命救急センター電子カルテ例

□ 脳卒中チーム電子カルテ例

□ 回復期リハ病棟・療養病床チーム電子カルテ例

# 1. チーム医療を推進するための基本的な考え方

## ○チーム医療教育例

### □ 医療法人社団 輝生会 研修プログラム

## 2. 急性期医療におけるチーム医療における「病棟配属型チーム」の具体例

**患者** : 63歳・男性

**診断名** : 全身熱傷Ⅱ 17.5% (寝たばこによる自宅火災で受傷)

**診療科** : 救命救急センター 形成外科

**身体状況** : 左手指・右前腕・右下腿切断 (植皮・切断術 計5回)

**ADL** : ベッド上全介助移動 車椅子、

食事 セッティング下で自立、排泄 おむつに失禁、

意欲低下あり、声出しあり (Nsを大声で頻回に呼ぶ)

**入院期間** : 在院日数 102日

**SW依頼** :

入院2日目 看護師より、医療費について

入院53日目 主治医より、転院について

## 2. 急性期医療におけるチーム医療における「病棟配属型チーム」の具体例

社会的背景：

【入院時情報 / 看護師より】

- 単身、独居
- るいそう著明、推定3日間くらい食事摂取していない様子
- 兄(遠隔地)が来院、保険証持参するも入院手続きは拒否。3~4年連絡とっていないかった。

【SW面接 / 兄夫婦より】

- 離婚歴あり、娘2人(遠隔地)、きょうだい3人(遠隔地)、父母は他界。
- 父母の面倒を見て、父母の年金で生活していた。きょうだい間不仲。父母の他界後、家の売却金相続をめぐり関係悪化。他のきょうだいは一切手を引き、全額(2,000万円)本人のみが相続した。
- 仕事はせず、それを切り崩して生活。
- 今回、兄は3年ぶりに再会(母の一周忌以来)、最近の生活状況わからず。



## 2. 急性期医療におけるチーム医療における「病棟配属型チーム」の具体例

### 【SW援助内容①】

- 社会的背景の情報収集
- キーパーソンの確保
- 疎遠かつ遠隔地の兄夫婦へ協力依頼、キーパーソンとしての関わりを支援
- 経済状況の確認、今後のプランニング
- 銀行口座残高200万円、生命保険あり、4ヵ月後～年金開始予定
- 当面はこれらを医療費に充当→将来的には生活保護申請を検討？
- 医療費に対して制度利用の支援
- 高額療養費限度額適用認定証→保険料滞納あり、兄が払って取得(C)
- 自宅処分に伴う支援
- 今後、団地3階(エレベーターなし)での生活は困難と判断し、退去。
- 兄宅へ住民票を異動、健保・限度額適用認定証の切り替え。

## 2. 急性期医療におけるチーム医療における「病棟配属型チーム」の具体例

### 【SW援助内容②】

- 転院先探し
- リハビリ対応ができる療養型。兄宅の近くで探し、A病院紹介。待機1ヶ月以上。
- ワンクッションとしてB病院も紹介、転院調整。

転帰： とりあえずB病院へ転院（当院近隣）  
→A病院（兄宅近く）待機

# チーム医療の目的に SWが特に貢献できることは青字の部分

- 近代の医療は専門分化が進む一方、患者の望む医療も多様化している
- 高度に進歩した専門的医療を患者の「生活」につなげることが重要である。
- これに対応するためには、高い専門性を持つメディカルスタッフが連携しつつ、適切に補完し合うことが不可欠である。
- 専門分化した医療を背景として、チーム医療の形態は多岐にわたっているのが実情である。
- 患者もチームの一員である。
- チーム医療では患者と各メディカルスタッフは情報を共有する。
- その結果、患者自身の最良の医療の選択が促進される。

# チーム医療の目的に SWが特に貢献できることは青字の部分

- 近代の医療は専門分化が進む一方、患者の望む医療も多様化している
- 高度に進歩した専門的医療を患者の「生活」につなげることが重要である。
- これに対応するためには、高い専門性を持つメディカルスタッフが連携しつつ、適切に補完し合うことが不可欠である。
- 専門分化した医療を背景として、チーム医療の形態は多岐にわたっているのが実情である。
- 患者もチームの一員である。
- チーム医療では患者と各メディカルスタッフは情報を共有する。
- その結果、患者自身の最良の医療の選択が促進される。

# チーム医療のプロセスに SWが特に貢献できることは青字の部分

## □ 方法

- ① ひとり一人、さまざまな背景をもつ患者から、治療に当たっての要望を十分に聞き取る
- ② 医学の進歩：膨大な知識、臓器別治療技術の高度化と細分化をチームで補完する
- ③ 最新の情報を元に、標準的な療法、臨床試験、代替療法までを客観的に根拠(エビデンス)で患者に示す
- ④ 患者と共に、患者にとっての個別、かつ最良の治療方法を選択する
- ⑤ 治療自体を生活につなげていく
- ⑥ 家族のサポートやケアも忘れない